

## 委員会報告

三月中で完了する計画だったのが、八〇〇ミリに変更することにより、非出水期内での工事が不可能となった。河川敷地内に構造物をつくることができないので河川敷から外れた位置に立て坑をつくることにより、推進延長が二五八・八メートルに増えた。

許可の関係では標準的な審査機関は一カ月から三カ月程度を見込んでいる。最悪でも十一月末ごろには許可がおりるものと考えている。

許可がおり次第、工事の手続きをし発注したい。十二月に発注すれば、来年七月末までの完了が可能ということと現在計画している。

**問** 管渠が四〇〇ミリから八〇〇ミリに大きく変わり、直接工事費でやると四〇〇ミリのときと八〇〇ミリのときはメーター当たりの単価はどのようになるのか。

**答** 四〇〇ミリで三十一万円、八〇〇ミリで44万円である。

業も預宅農家から高い評価を得ている。

今後は、地元で生産された牛乳を地元町民が飲めるように、育成牧場が新たに搾乳に取り組み、さらに乳製品の加工の拠点として早急に整備を進めるべきである。

また、搾乳や加工の体制が整うことにより、酪農を体系的に学ぶことができる研修牧場としての機能も担うことが可能となる。

一方、多和平として観光的要素を持つ施設でもあり、動物とのふれあい酪農体験などの展開も可能である。

地域自らが、地域の資源を最大限に活かし、地域内で消費し次の生産につなげていく地域循環型の取り組みこそ、今後の標茶を元気に付けると考ええる。

これまで以上に行政とJAなど関係機関が一体となり、強力に取り組みべき課題と考える。

育成牧場は地元の受入牛が増頭して安定し、哺育事

## 議会運営委員会

### 調査事項

- (1) 議会運営に関する事項
- (2) 会議規則、委員会条例及び議会先例に関する事項

### 調査日時

平成二十二年五月十四日  
平成二十二年七月二十七日  
～三十日  
平成二十二年八月二十六日

### 所見

(1) 議会が住民から信頼されるためには、議会と町民の信頼関係が重要であることから、議会のチェック機能など議会の機能を十分発揮させるために、現在の議会運営の見直しや、議員定数削減による議会体制等の検討のため、委員会内の議論・調査や北海道町村議会議長会、栗山町議会、由仁町議会の調査を実施した。

(2) 議会先例については、議員の自由な議論、意思決定の場としての権利を阻害す

ような基準はないかについての検討、先例と異なるときの弾力的な運用について、さらには住民感覚として適当かどうか検討が必要である。

争点が大きく分かれる案件について、議員間で自由に討論を行える場を確保し、議論を尽くし、より良い合意形成に努めるような仕組みについては今後、検討に値する。

議員の資質の向上については至上命題である。町民との関わり、日々の研鑽、積極的な調査、検討や情報収集等のための議員活動を支える政務調査費の導入について検討すべきである。

議員は、住民全体の代表者であることに徹し、自己の良心と信念に基づき自由に主張し合い、これらを調整、統合させ結論を導き出すことに努力すること、また、議長がその指導力を十分に発揮することが議会改革のため重要である。

## 第三回定例会 議会全口誌から

- 六月二十二日 川上郡衛生処理組合議会第一回臨時会
- 七月一日 北海道町村議会議員研修会
- 七月五日 広報調査特別委員会
- 七月六日 広報調査特別委員会
- 七月七日 広報調査特別委員会
- 七月八日 千葉県袖ヶ浦市議会議員行政視察
- 七月十三日 広報調査特別委員会
- 七月十六日 広報調査特別委員会
- 七月二十八日  
～三十日 議会運営委員会所管事務調査
- 八月二十日 川上郡衛生処理組合議会第二回定例会
- 八月二十六日 議会運営委員会
- 八月二十六日 産業建設委員会所管事務調査
- 八月三十一日 釧路北部消防事務組合議会第二回定例会
- 八月三十一日  
～九月二日 厚生文教委員会所管事務調査
- 九月十日 議会運営委員会
- 九月十四日  
～十五日 第三回定例会



楽しかった産業まつり

## 編集後記

歴史的な長い猛暑の夏もやっと一段落しました。山野の木々の葉もようやく色づき始め、一段と過ごしやすくなってきた今日この頃です。

第三回定例会は、一般質問、予算総括質疑を合わせ二十件、過疎法の市町村計画の策定、一般会計を含む補正予算、意見書の採択三件などで活発な質疑がありました。その内容についてお伝えいたします。

その中で、上水道事業に大型補正が組まれました。議会は原案通り可決をしました。この補正は、前に議決した予算に追加をするもので、止むを得ず必要な補正とはいえ、予算編成にあたっては、十分な調査が必要だと感じました。

今後は、今まで以上に議会の持てる機能を十分に発揮させなければなりません。

ぜひ町民の皆さんのご意見やご感想を、お寄せいただければ幸いです。

文責 末柄 薫